

障害に関する県民福祉意識調査

報告書

社会福祉法人静岡県社会福祉協議会

目次

| | | |
|----------------------|------------|----|
| 調査の概要 | ・・・・・・・・・・ | 1 |
| 講評 | ・・・・・・・・・・ | 2 |
| 調査結果 | ・・・・・・・・・・ | 5 |
| 1 単純集計結果 | | |
| 2 詳細な分析結果 | ・・・・・・・・・・ | 6 |
| ・ 各基礎属性との関係 | ・・・・・・・・・・ | 14 |
| ・ 相関 | ・・・・・・・・・・ | 28 |
| ・ 障害がある人との接触機会と偏見の関係 | ・・・・・・・・・・ | 30 |
| 自由記述 | ・・・・・・・・・・ | 34 |
| 脚注 | ・・・・・・・・・・ | 36 |
| 調査票 | ・・・・・・・・・・ | 38 |

調査の概要

1 調査目的

県民の福祉意識の現状を明らかにし、福祉意識の高揚を図るための広報啓発の取組に向けた基礎資料とするため。

2 調査対象

静岡県内に住む 20 歳以上の男女 2,000 人

3 調査方法

質問紙を用いた郵送調査を採用した。

サンプルは住民基本台帳から層化二段無作為抽出 (39 の市区町から抽出)
(サンプル抽出に係る設計及び作業は㈱サーベイリサーチセンターへ委託)

4 調査内容

県民の障害者に対する偏見、差別意識

主な質問紙内容

選択項目 基礎属性(性別、年齢、職業、地域、身近に障害がある人がいるか)

尺度項目 障害者との接触機会、偏見、障害に対する考え方

5 調査期間

(1) 予備調査

平成 19 年 4 月～5 月

(2) 本調査

平成 19 年 12 月～平成 20 年 1 月

層化二段抽出法¹

・二段抽出法(多段抽出法)

サンプリングを二回に分けて、第一段階で調査する地点を選び(第一次抽出単位)、第二段階では選ばれた地点の中から個人(第二次抽出単位)を選びます。

・層化二段抽出法

異なる特性を持つ地域を偏りなく選ぶために、初めに地域を人口規模とか産業構造などの指標で層に分けておき、各層から地域を抽出した後で第二次抽出を行います。



障害に関する県民意識調査を実施して

静岡英和学院大学 准教授 白山靖彦

はじめに

昨今、障害者を取り巻く社会環境は大きく変化しており、障害者問題も多様化しています。その第1は、制度上の問題です。身体、知的、精神障害という障害種別ごとのサービスを統合化する動きによって障害者自立支援法(2006)が施行されました。第2は、社会環境における問題です。障害者の社会参加をより促進するために、駅などの公共施設にエレベーターなどの設置を義務付けるバリアフリー法(2006)によって、だれもが住みやすい社会環境が整備されつつあります。第3は、障害者の権利に関する問題です。わが国では、障害者差別を禁止する法律はありませんが、障害者基本法において、差別を抑止する条文が掲載(2004)され、2007年には、「障害のある人の権利条約」に日本も署名し、今後具体的な政策が展開されようとしています。そして、千葉県では「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」(2007)が制定され、全国から注目を集めています。こうした変化を総称して「パラダイム転換」といいますが、要は人々のものの見方・考え方を根本的に見直す時期に来ているといえます。

本調査は、こうしたパラダイム転換の第3の部分に着目したものです。障害者差別に関する問題を県民の偏見意識の面からその実態・内容を明らかにし、人々のもつ偏見を除去するための有効な方法を探ることが大きな目的となっています。

そこで、調査前にいくつかの疑問や仮説を整理してみました(表1)。結果については注目すべき点が数多く見られますので、そちらをご参照ください。

なお、本稿での障害者に関する表記は、「障害者」、「障害のある人」、「障がい者」などから、紙面の関係上「障害者」と統一したことをご了承していただきたい。

表1

-
- 1) 偏見は、性別(男女)によって違いがあるのか。
 - 2) 偏見は、年齢(年代)によって違いがあるのか。
 - 3) 偏見は、教育年数(中学卒、高校卒、大学卒など)によって違いがあるのか。
 - 4) 偏見は、職業(会社員、自営業、公務員など)によって違いがあるのか。
 - 5) 障害者と接する機会が多い人は、障害者に対する考え方(障害者観)がポジティブである。
 - 6) ポジティブな障害者観のある人は、偏見が少ない。
-

偏見の所在について *以下論調記述

偏見の形成やその解消の過程は、従来から社会心理学の対象として扱われてきたものであり、偏見の心理メカニズムの解明やその解消のための個別的方法の効果性の検証に主眼が置かれてきた。社会福祉分野においては、主に精神障害者に限定した偏見に関する研究や、障害当事者に対する差別偏見の意識調査は行われてきたが、障害者に対する一般市民の偏見意識に関する研究調査が行われた例は極めて少ない。その中で、2007年2月、内閣府によって障害者に対する差別偏見の意識調査としては、はじめて大規模(対象者3,000名)な「障害者に関する世論調査」が実施された。特に「障害者とのふれあい」という項目の中で、差別や偏見の有無について、82.9%が障害を理由とする差別や偏見があると答えている(詳細は省略)。差別や偏見の改善状況について、57.2%が5年前に比べて差別や偏見が解消されたと答えている(詳細は省略)しかし、ここでは障害者の差別や偏見が国民意識の中に一定程度あることを示したにとどまっており、社会構造の問題やその解消の方法には触れられていない。

「偏見」とは、「ある集団に属しているある人が、単にその属していることのみで、その集団がもっている望ましくない特質をその人がもっているとして、その人に対して向けられる否定的な態度である。」(Allport 1954)とされている。また、「非好意的態度であり、他の人々や他の集団にとって『有利な』というよりも『不利な』ように知覚し、行為し、思惟し、感得する傾性である。」(Newcomb 1950)と定義されている。いずれにしても「否定的(ネガティブ)な感情」を指し、一般の人々が障害者に対して何らかの否定的な感情をもつことや態度を取ることが、障害者に対する偏見として捉えることができる。「差別」とは、特定の人々に対して不利益・不平等な扱いをすることであり、具体的な排除行為や優劣性の適用が存在する。したがって、本稿では差別と偏見を違う概念として取り扱うこととする。

偏見の多くは、「対象者との相互作用がなく無知なるがゆえの偏見」(山内隆久 1996)とされており、ここでいう対象者との相互作用とは「障害者と接する機会」と置き換えることができる。機会とは、障害者に出会う、コミュニケーションする、共に作業を行う、などの行為を指す。機会が多ければ、障害者との心理的距離は縮まるが、少なければその距離は遠くなる。

そして、障害者と接する機会の度合いは、その人の「障害者観」を形成する重要な因子となる。障害者観とは、障害者個人に対してではなく、障害者というひとつのカテゴリーに対するイメージであり、障害者に対する考え方を意味する。したがって、この障害者に対する考え方が肯定的(ポジティブ)であれば、偏見は少なく、否定的(ネガティブ)であれば偏見は大きいと考えられる(図1)。

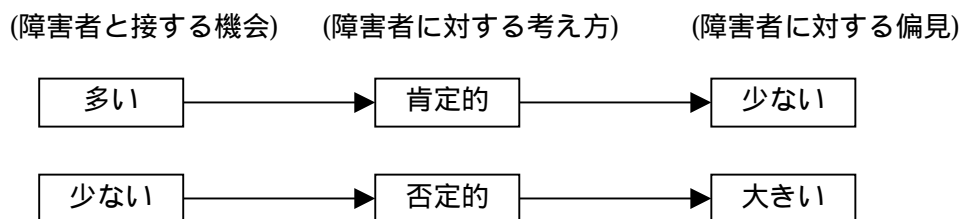


図1 障害者に対する偏見のメカニズム(白山仮説)

今後の展開について

1962年、社会福祉協議会(以下「社協」)は基本要項を定め、社協の機能について「社会福祉協議会は、調査、集団討議、および広報等の方法により、地域の福祉に欠ける状態を明らかにし、適切な福祉計画をたて、その必要に応じて、地域住民の協働促進、関係機関・団体・施設の連絡・調整、および社会資源の育成などの組織活動を行なうことを主たる機能とする。」(青木ら2006)としている。現在の社会福祉の多様化により、社協の機能も拡大しているが、本来の機能である地域福祉の核として、その果たす役割は益々大きい。その中で福祉教育、社会教育といった啓発活動がより重要とされており、地域住民と密接な関係の中で共生社会の実現を図ることが求められている。

本調査では、こうした社協機能の一環として、静岡県民の障害者に対する偏見の実態を明らかにした。今後は、調査結果を基に偏見除去のための具体的な方法の検討が必要であろう。静岡県社協の継続した取組みを期待したい。

参考とした文献など

Allport, G.W. 1954 *The nature of prejudice*. Cambridge MA: Addison-Wesley.

(原谷達夫・野村昭訳 1968 偏見の心理 培風館)

Newcomb, T.M. 1950 *Social psychology*. New York: The Dryden Press.

(森東吾・萬成博訳 1956 社会心理学 培風館)

山内隆久: 偏見解消の心理-対人接触による障害者の理解-, ナカニシヤ出版, 1996

後藤吉彦: 障害者/健常者カテゴリーの不安定化にむけて, 社会学評 55(4), 400-417, 2004

中西由紀子: 権利の問題としての障害, 社会福祉研究(87), 16-23, 2007

千葉県健康福祉部障害福祉課: 「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」, ノーマライゼーション 11月号, 54-56, 2007

内閣府 <http://www.cao.go.jp/>(2007.2月アクセス)

青木智香他: 社協職員から問う社会福祉協議会の使命とは, 大阪市社会福祉研究(29), 71-86, 2006

調査の結果

抽出した 39 の市区町から計 2,000 人を抽出し、調査への協力を依頼したところ、705 名から回答を得た。回収率は 35.3%であった。

回収率

| | 調査票発送数 | 回答者数 | 回収率 |
|--------|--------|------|-------|
| 沼津市 | 113 | 26 | 23.0% |
| 三島市 | 60 | 25 | 41.7% |
| 富士宮市 | 65 | 20 | 30.8% |
| 富士市 | 124 | 46 | 37.1% |
| 熱海市 | 24 | 11 | 45.8% |
| 伊東市 | 41 | 11 | 26.8% |
| 御殿場市 | 45 | 12 | 26.7% |
| 下田市 | 15 | 2 | 13.3% |
| 裾野市 | 28 | 9 | 32.1% |
| 伊豆市 | 20 | 4 | 20.0% |
| 伊豆の国市 | 27 | 8 | 29.6% |
| 東伊豆町 | 13 | 5 | 38.5% |
| 南伊豆町 | 17 | 1 | 5.9% |
| 函南町 | 21 | 8 | 38.1% |
| 清水町 | 16 | 5 | 31.3% |
| 長泉町 | 20 | 7 | 35.0% |
| 小山町 | 16 | 4 | 25.0% |
| 静岡市葵区 | 140 | 56 | 40.0% |
| 静岡市駿河区 | 111 | 35 | 31.5% |
| 静岡市清水区 | 131 | 36 | 27.5% |
| 島田市 | 51 | 14 | 27.5% |
| 焼津市 | 63 | 30 | 47.6% |
| 藤枝市 | 69 | 27 | 39.1% |
| 牧之原市 | 27 | 10 | 37.0% |
| 由比町 | 14 | 2 | 14.3% |
| 大井川町 | 19 | 6 | 31.6% |
| 吉田町 | 23 | 10 | 43.5% |
| 浜松市中区 | 154 | 47 | 30.5% |
| 浜松市東区 | 83 | 27 | 32.5% |
| 浜松市北区 | 58 | 23 | 39.7% |
| 浜松市南区 | 60 | 23 | 38.3% |
| 浜松市浜北区 | 58 | 16 | 27.6% |
| 磐田市 | 88 | 30 | 34.1% |
| 掛川市 | 60 | 18 | 30.0% |
| 袋井市 | 42 | 17 | 40.5% |
| 湖西市 | 22 | 7 | 31.8% |
| 御前崎市 | 18 | 5 | 27.8% |
| 菊川市 | 24 | 10 | 41.7% |
| 森町 | 20 | 6 | 30.0% |
| 地域不明 | - | 46 | - |
| 合計 | 2,000 | 705 | 35.3% |

単純集計結果

今回の調査は、層化二段無作為抽出とし、抽出した県内の39の市区町を対象に調査を行った。

地 域

| | 回答者数 | % |
|--------|------|--------|
| 沼津市 | 26 | 3.7% |
| 三島市 | 25 | 3.5% |
| 富士宮市 | 20 | 2.8% |
| 富士市 | 46 | 6.5% |
| 熱海市 | 11 | 1.6% |
| 伊東市 | 11 | 1.6% |
| 御殿場市 | 12 | 1.7% |
| 下田市 | 2 | 0.3% |
| 裾野市 | 9 | 1.3% |
| 伊豆市 | 4 | 0.6% |
| 伊豆の国市 | 8 | 1.1% |
| 東伊豆町 | 5 | 0.7% |
| 南伊豆町 | 1 | 0.1% |
| 函南町 | 8 | 1.1% |
| 清水町 | 5 | 0.7% |
| 長泉町 | 7 | 1.0% |
| 小山町 | 4 | 0.6% |
| 静岡市葵区 | 56 | 7.9% |
| 静岡市駿河区 | 35 | 5.0% |
| 静岡市清水区 | 36 | 5.1% |
| 島田市 | 14 | 2.0% |
| 焼津市 | 30 | 4.3% |
| 藤枝市 | 27 | 3.8% |
| 牧之原市 | 10 | 1.4% |
| 由比町 | 2 | 0.3% |
| 大井川町 | 6 | 0.9% |
| 吉田町 | 10 | 1.4% |
| 浜松市中区 | 47 | 6.7% |
| 浜松市東区 | 27 | 3.8% |
| 浜松市北区 | 23 | 3.3% |
| 浜松市南区 | 23 | 3.3% |
| 浜松市浜北区 | 16 | 2.3% |
| 磐田市 | 30 | 4.3% |
| 掛川市 | 18 | 2.6% |
| 袋井市 | 17 | 2.4% |
| 湖西市 | 7 | 1.0% |
| 御前崎市 | 5 | 0.7% |
| 菊川市 | 10 | 1.4% |
| 森町 | 6 | 0.9% |
| 地域不明 | 46 | 6.5% |
| 合計 | 705 | 100.0% |

1 性別

| | 回答者数 | % |
|----|------|-------|
| 男性 | 305 | 43.3% |
| 女性 | 400 | 56.7% |

女性からの回答が若干多い結果となった。

2 年齢

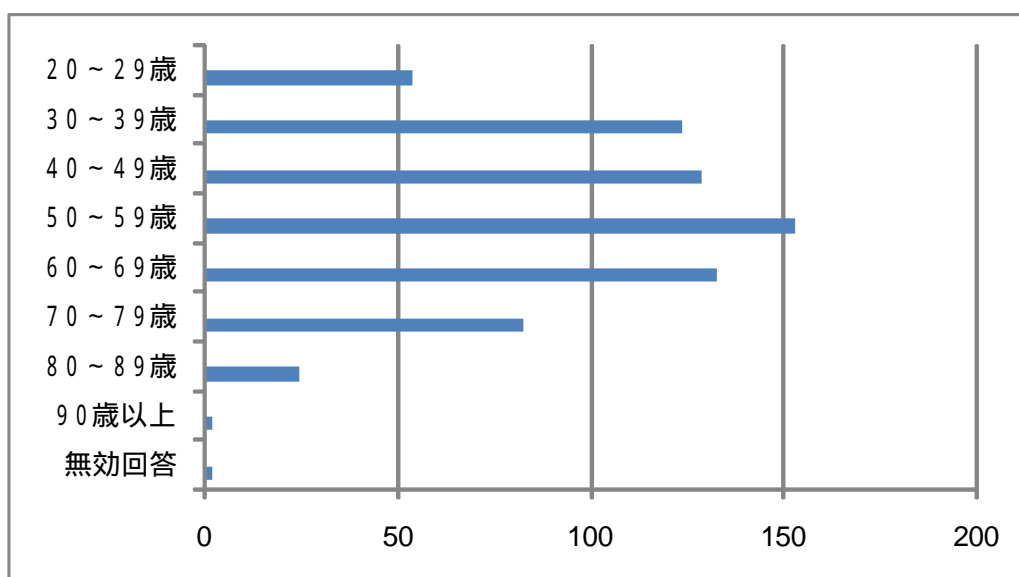
| | 回答者数 | % |
|--------|------|-------|
| 20～29歳 | 54 | 7.7% |
| 30～39歳 | 124 | 17.6% |
| 40～49歳 | 129 | 18.3% |
| 50～59歳 | 153 | 21.7% |
| 60～69歳 | 133 | 18.9% |
| 70～79歳 | 83 | 11.8% |
| 80～89歳 | 25 | 3.5% |
| 90歳以上 | 2 | 0.3% |
| 無効回答 | 2 | 0.3% |

今回の調査では空欄に年齢を記入してもらった。
平均年齢は 52.1 歳であった(標準偏差 15.8)。

標準偏差ⁱⁱ

調査データのばらつき具合を知る指標。

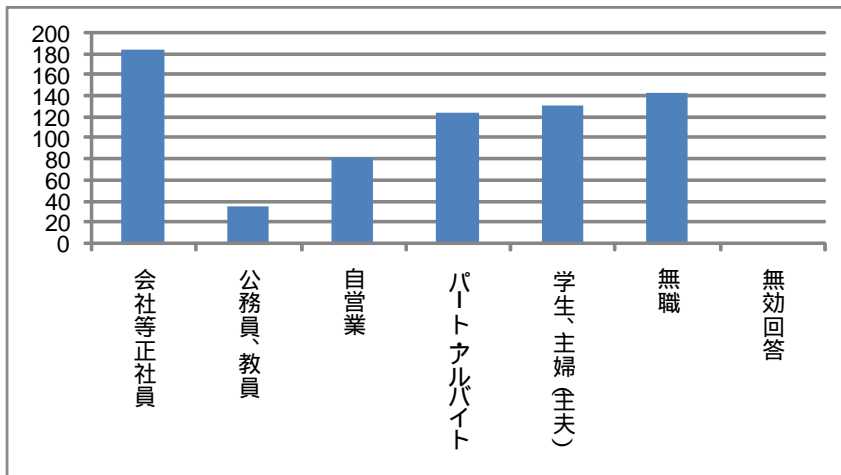
個々のデータが、平均からどれ位ばらついているかを表す指標として、「データの平均と個々のデータの差(これを偏差といいます)」の2乗の平均と、その平方根が考えられました。このときの差の2乗の平均を「分散」、その平方根を「標準偏差」といいます。



3 就労形態

| | 回答者数 | % |
|-----------|------|-------|
| 会社等正社員 | 185 | 26.2% |
| 公務員、教員 | 36 | 5.1% |
| 自営業 | 82 | 11.6% |
| パート・アルバイト | 125 | 17.7% |
| 学生、主婦(主夫) | 132 | 18.7% |
| 無職 | 144 | 20.4% |
| 無効回答 | 1 | 0.1% |

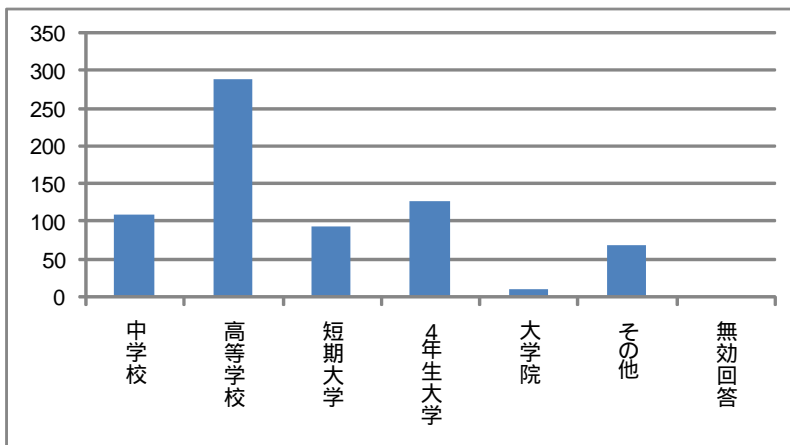
会社等正社員と回答した人が最も多く、約4分の1を占めた。



4 最終学歴

| | 回答者数 | % |
|-------|------|-------|
| 中学校 | 110 | 15.6% |
| 高等学校 | 290 | 41.1% |
| 短期大学 | 94 | 13.3% |
| 4年生大学 | 128 | 18.2% |
| 大学院 | 11 | 1.6% |
| その他 | 69 | 9.8% |
| 無効回答 | 3 | 0.4% |

最終学歴について、高等学校と回答した人が最も多く、41.1%を占めた。

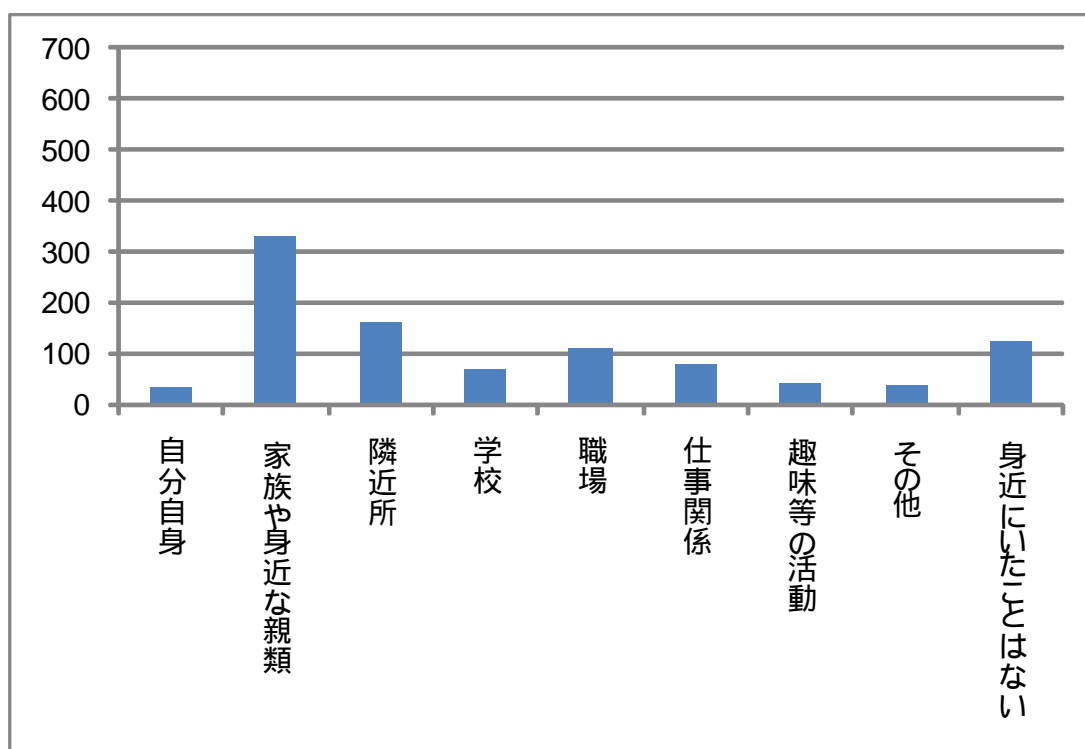


5 あなたの身近に障害がある人がいますか。(いましたか。) 複数回答可

| | あなたの身近に障害がある人がいますか |
|------------|--------------------|
| 自分自身 | 34 |
| 家族や身近な親類 | 331 |
| 隣近所 | 162 |
| 学校 | 69 |
| 職場 | 112 |
| 仕事関係 | 77 |
| 趣味等の活動 | 41 |
| その他 | 39 |
| 身近にいたことはない | 123 |

この調査の回答者 705 名のうち、331 名が家族や身近な親類に障害がある人がいる(いた)と回答した。

逆に、障害がある人が身近にいたことはないと回答したのは 123 名であった。



6 あなたの障害がある人と接する機会について、お伺いします。

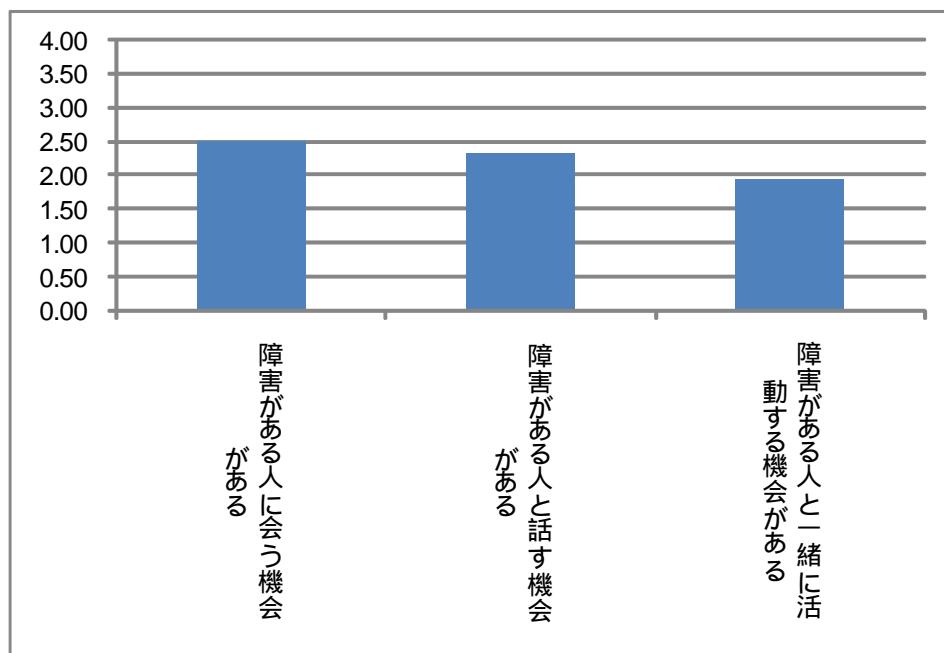
| | 平均得点 | 標準偏差 | 全くない | | 何回があった | | 月に1回程度ある | | 週に1回以上ある | |
|---------------------|------|------|------|-------|--------|-------|----------|-------|----------|-------|
| | | | 回答数 | % | 回答数 | % | 回答数 | % | 回答数 | % |
| 障害がある人に会う機会がある | 2.52 | 1.04 | 118 | 16.7% | 278 | 39.4% | 124 | 17.6% | 178 | 25.2% |
| 障害がある人と話す機会がある | 2.33 | 1.08 | 181 | 25.7% | 256 | 36.3% | 104 | 14.8% | 153 | 21.7% |
| 障害がある人と一緒に活動する機会がある | 1.94 | 1.13 | 341 | 48.4% | 168 | 23.8% | 57 | 8.1% | 120 | 17.0% |

全くない = 1点、何回があった = 2点、月に1回程度ある = 3点、週に1回以上ある = 4点で換算した場合の平均得点は表及びグラフのとおりとなった。

8割以上の回答者が障害があるに会う機会があるが、回答者のうち約半数が、障害がある人と一緒に活動する機会がないという結果となった。

会う機会 話す機会 一緒に活動する機会の順に機会が減少していることがわかる。

平均得点のグラフ

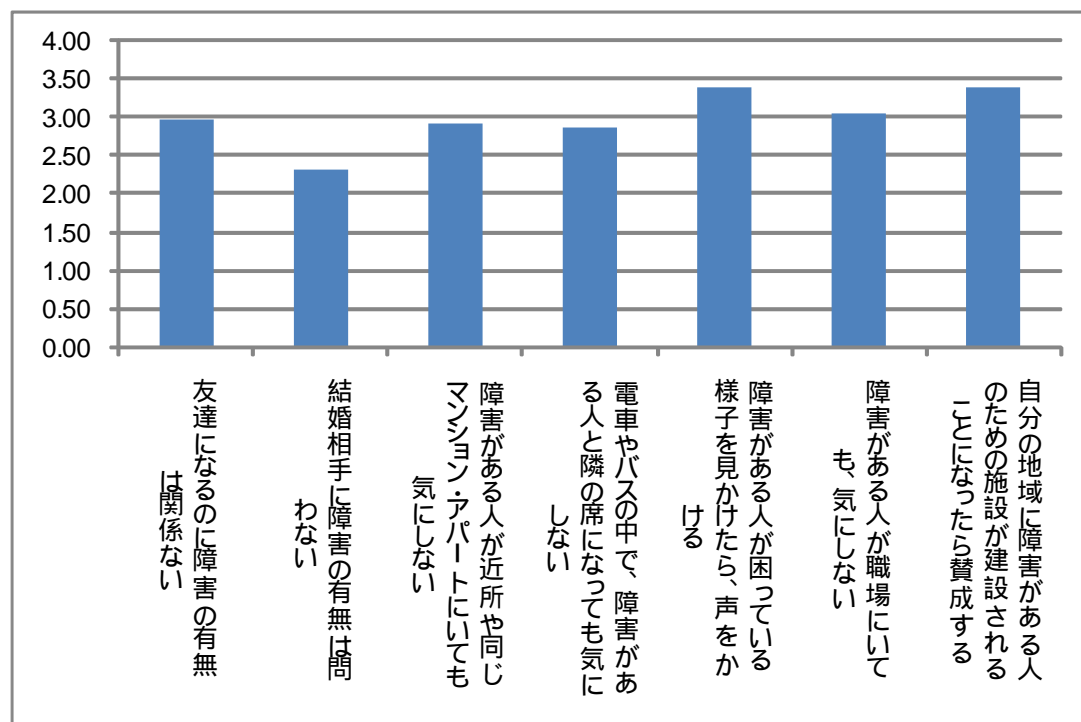


7 障害がある人の生活について、あなたの考え方についてお伺いします。

| | 平均得点 | 標準偏差 | 全くそう思わない | | あまり思わない | | まあまあそう思う | | とてもそう思う | |
|-------------------------------------|------|------|----------|-------|---------|-------|----------|-------|---------|-------|
| | | | 回答数 | % | 回答数 | % | 回答数 | % | 回答数 | % |
| 友達になるのに障害の有無は関係ない | 2.98 | 0.95 | 66 | 9.4% | 128 | 18.2% | 264 | 37.4% | 244 | 34.6% |
| 結婚相手に障害の有無は問わない | 2.32 | 0.92 | 146 | 20.7% | 239 | 33.9% | 228 | 32.3% | 68 | 9.6% |
| 障害がある人が近所や同じマンション・アパートにいても気にしない | 2.92 | 1.03 | 82 | 11.6% | 153 | 21.7% | 200 | 28.4% | 261 | 37.0% |
| 電車やバスの中で、障害がある人と隣の席になっても気にしない | 2.88 | 1.03 | 94 | 13.3% | 140 | 19.9% | 218 | 30.9% | 247 | 35.0% |
| 障害がある人が困っている様子を見かけたら、声をかける | 3.41 | 0.72 | 18 | 2.6% | 42 | 6.0% | 271 | 38.4% | 365 | 51.8% |
| 障害がある人が職場にいても、気にしない | 3.07 | 0.97 | 65 | 9.2% | 105 | 14.9% | 233 | 33.0% | 282 | 40.0% |
| 自分の地域に障害がある人のための施設が建設されることになったら賛成する | 3.40 | 0.73 | 19 | 2.7% | 46 | 6.5% | 270 | 38.3% | 365 | 51.8% |

全くそう思わない = 1点、あまり思わない = 2点、まあまあそう思う = 3点、とてもそう思う = 4点で換算した場合の平均得点は表及びグラフのとおりとなった。

「障害がある人が困っている様子を見かけたら、声をかける」及び「自分の地域に障害がある人のための施設が建設されることになったら賛成する」という設問に対しては、9割強の人が「まあまあそう思う」もしくは「とてもそう思う」という肯定的な回答をした。



8 あなたが日ごろ、障害がある人に対して、どのように感じているのかをお伺いします。

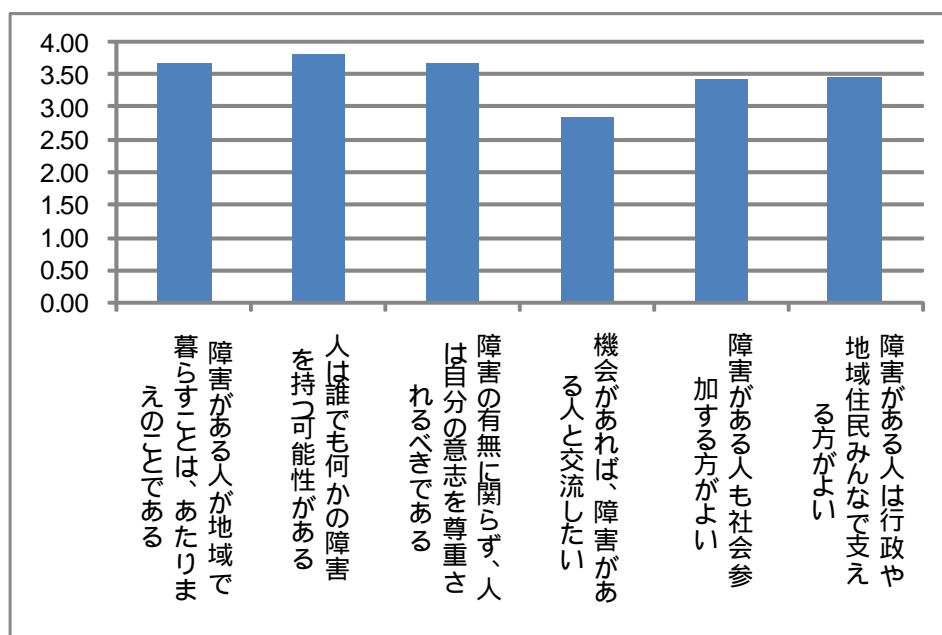
(1)肯定的な設問に対する回答分布

| | 平均得点 | 標準偏差 | 全くそう思わない | | あまりそう思わない | | まゝまゝそう思う | | とてもそう思う | |
|------------------------------|------|------|----------|------|-----------|-------|----------|-------|---------|-------|
| | | | 回答数 | % | 回答数 | % | 回答数 | % | 回答数 | % |
| 障害がある人が地域で暮らすことは、あたりまえのことである | 3.67 | 0.57 | 9 | 1.3% | 12 | 1.7% | 182 | 25.8% | 496 | 70.4% |
| 人は誰でも何かの障害を持つ可能性がある | 3.81 | 0.45 | 5 | 0.7% | 4 | 0.6% | 110 | 15.6% | 585 | 83.0% |
| 障害の有無に関らず、人は自分の意志を尊重されるべきである | 3.70 | 0.53 | 5 | 0.7% | 11 | 1.6% | 170 | 24.1% | 515 | 73.0% |
| 機会があれば、障害がある人と交流したい | 2.86 | 0.78 | 23 | 3.3% | 201 | 28.5% | 318 | 45.1% | 149 | 21.1% |
| 障害がある人も社会参加する方がよい | 3.43 | 0.64 | 11 | 1.6% | 27 | 3.8% | 313 | 44.4% | 347 | 49.2% |
| 障害がある人は行政や地域住民みんなで支える方がよい | 3.46 | 0.69 | 12 | 1.7% | 45 | 6.4% | 255 | 36.2% | 389 | 55.2% |

全くそう思わない = 1点、あまり思わない = 2点、まゝまゝそう思う = 3点、とてもそう思う = 4点で換算した場合の平均得点は表及びグラフのとおりとなった。

これらの設問に対して、得点が高いほど偏見が低いということになる。

おおむね、肯定的な回答が多かった。しかし、「機会があれば障害がある人と交流したい」のみが他と比べて低い得点結果となっている。



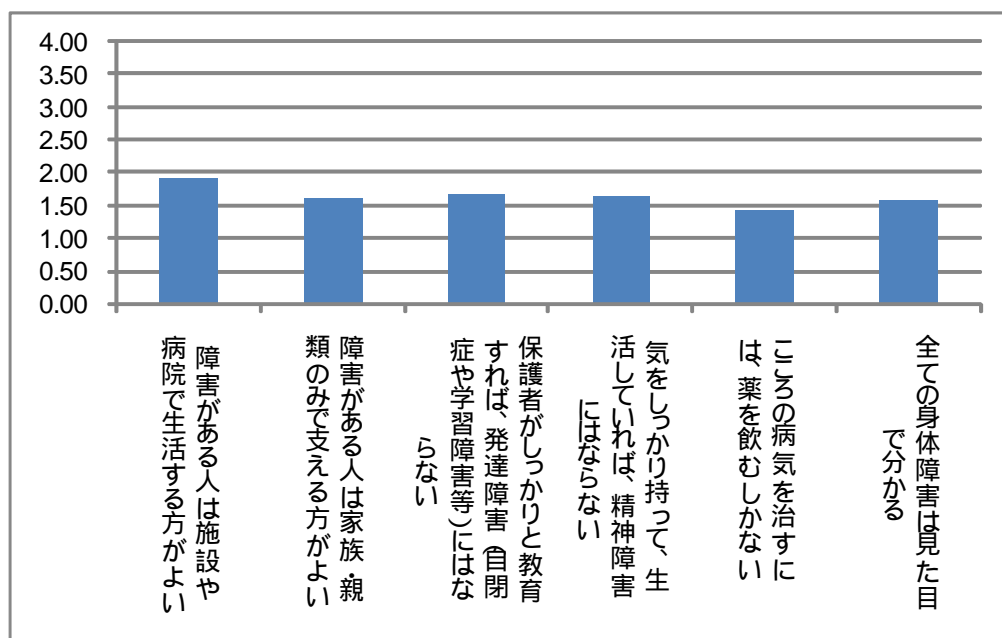
(2)否定的な設問に対する回答分布

| | 平均得点 | 標準偏差 | 全くそう思わない | | あまりそう思わない | | まあまあそう思う | | とてもそう思う | |
|--------------------------------------|------|------|----------|-------|-----------|-------|----------|-------|---------|------|
| | | | 回答数 | % | 回答数 | % | 回答数 | % | 回答数 | % |
| 障害がある人は施設や病院で生活する方がよい | 1.90 | 0.78 | 225 | 31.9% | 338 | 47.9% | 101 | 14.3% | 26 | 3.7% |
| 障害がある人は家族・親類のみで支える方がよい | 1.61 | 0.76 | 370 | 52.5% | 262 | 37.2% | 43 | 6.1% | 26 | 3.7% |
| 保護者がしっかりと教育すれば、発達障害(自閉症や学習障害等)にはならない | 1.67 | 0.85 | 368 | 52.2% | 224 | 31.8% | 64 | 9.1% | 38 | 5.4% |
| 気をしっかり持って、生活していれば、精神障害にはならない | 1.64 | 0.83 | 385 | 54.6% | 204 | 28.9% | 78 | 11.1% | 28 | 4.0% |
| こころの病気を治すには、薬を飲むしかない | 1.43 | 0.67 | 453 | 64.3% | 198 | 28.1% | 29 | 4.1% | 14 | 2.0% |
| 全ての身体障害は見た目分かる | 1.56 | 0.77 | 410 | 58.2% | 204 | 28.9% | 59 | 8.4% | 22 | 3.1% |

全くそう思わない = 1点、あまり思わない = 2点、まあまあそう思う = 3点、とてもそう思う = 4点で換算した場合の平均得点は表及びグラフのとおりとなった。

これらの設問に対して、得点が高いほど偏見が高いということになる。

すべての項目において、得点は低い傾向にあった、しかし、1割強の県民が否定的な考えや、誤った認識を持っているという結果となった。

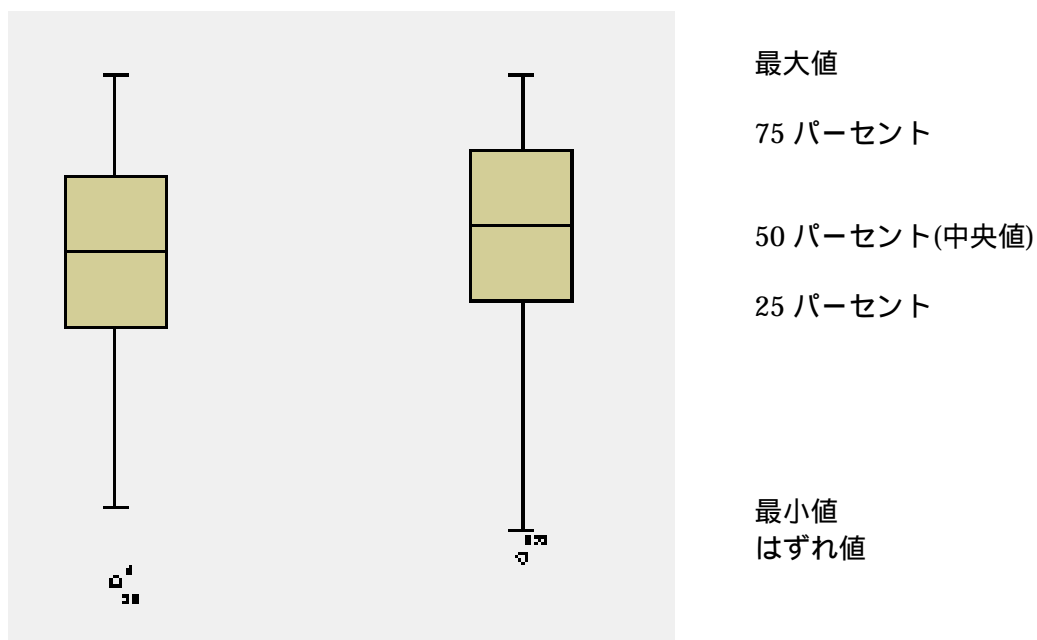


詳細な分析結果

前述の6、7、8(1)、8(2)それぞれをブロックごとに合算し、分析を行った。

- 6 <障害がある人と接する機会> 機会 all
- 7 <障害がある人の生活についての考え> 考え all
- 8(1) <障害がある人に対して感じていること>のうち、肯定的なもの 偏見 pos
- 8(2) <障害がある人に対して感じていること>のうち、否定的なもの 偏見 neg

箱ひげ図の見方



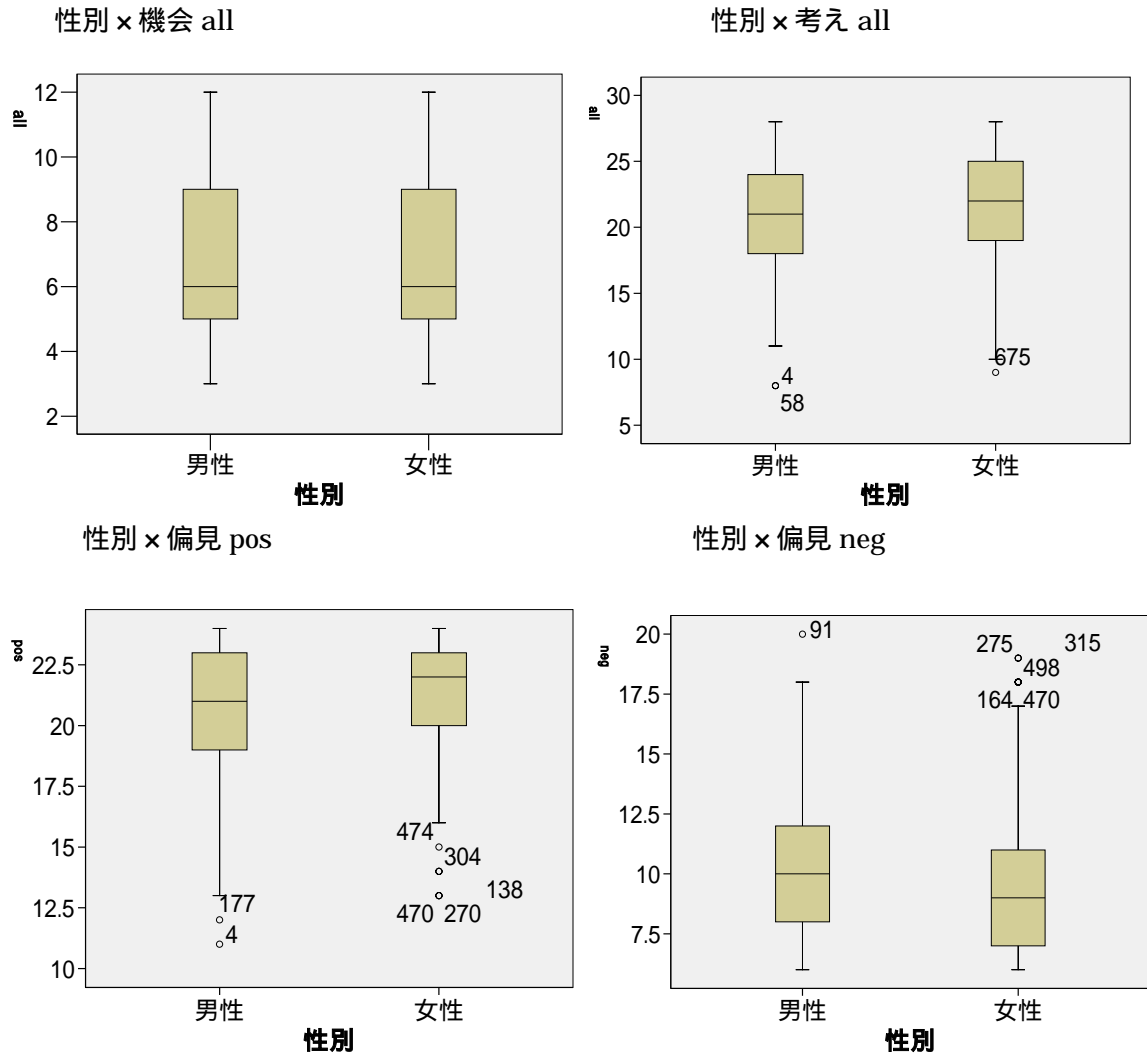
この図は、中央に「箱」があり、その上下に線が「ひげ」のように引かれているので箱ひげ図と呼びます。「ひげ」の上端が最大値、下端が最小値を表し、中央の「箱」の中に全ケースの半分が入るようにつくられています。この「箱」の位置が図の上端寄りであるか、中ほどであるか、下側寄りであるかによって、データの分布の偏りの状態を判断することができます。ⁱⁱⁱ

1 各基礎属性との関係

(1)性別

性別については、障害がある人との接触機会や考え方には差は見られなかったが、偏見 pos, 偏見 neg において、有意な差を確認することができた。

ともに、女性のほうが男性に比べて偏見が低いという結果になった。



性別との間に差があった主な項目

性別 * 障害がある人は家族・親類のみで支える方がよい

男性と女性を比べると、女性で<全くそう思わない>と回答した人 57.9%で男性は 46.0%であり、<まあああそう思う>もしくは<とてもそう思う>と回答した割合も男性のほうが若干高かった。

加え表

| | | | 障害がある人は家族・親類のみで支える方がよい | | | | 合計 |
|----|----|------|------------------------|-----------|----------|---------|--------|
| | | | 全くそう思わない | あまりそう思わない | まあああそう思う | とてもそう思う | |
| 性別 | 男性 | 度数 | 139 | 125 | 25 | 13 | 302 |
| | | 性別の% | 46.0% | 41.4% | 8.3% | 4.3% | 100.0% |
| | 女性 | 度数 | 231 | 137 | 18 | 13 | 399 |
| | | 性別の% | 57.9% | 34.3% | 4.5% | 3.3% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 370 | 262 | 43 | 26 | 701 |
| | | 性別の% | 52.8% | 37.4% | 6.1% | 3.7% | 100.0% |

性別 * 保護者がしっかりと教育すれば、発達障害(自閉症や学習障害等)にはならない

男性と女性を比べると、女性で<全くそう思わない>と回答した人 60.6%で男性は 43%であり、<まあああそう思う>もしくは<とてもそう思う>と回答した割合も男性のほうが若干高かった。

加え表

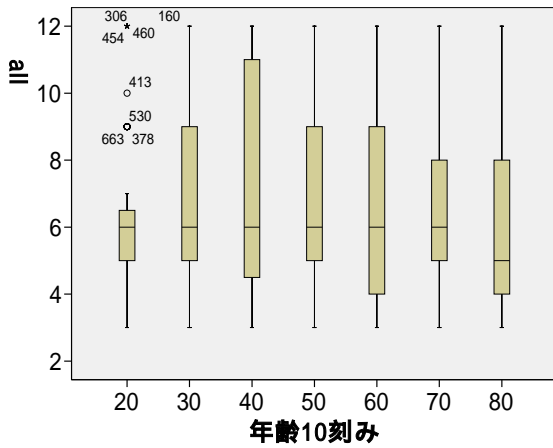
| | | | 保護者がしっかりと教育すれば、発達障害(自閉症や学習障害等)にはならない | | | | 合計 |
|----|----|------|--------------------------------------|-----------|----------|---------|--------|
| | | | 全くそう思わない | あまりそう思わない | まあああそう思う | とてもそう思う | |
| 性別 | 男性 | 度数 | 128 | 109 | 41 | 20 | 298 |
| | | 性別の% | 43.0% | 36.6% | 13.8% | 6.7% | 100.0% |
| | 女性 | 度数 | 240 | 115 | 23 | 18 | 396 |
| | | 性別の% | 60.6% | 29.0% | 5.8% | 4.5% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 368 | 224 | 64 | 38 | 694 |
| | | 性別の% | 53.0% | 32.3% | 9.2% | 5.5% | 100.0% |

(2)年齢

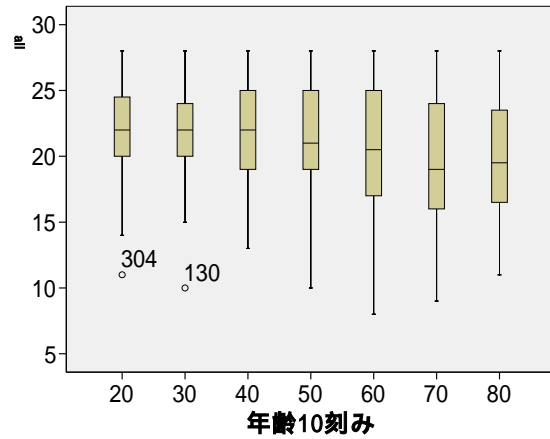
年齢については、年齢を10歳ごとに合算し、集計したところ、相関関係ではないものの(年齢が高くなるほど、偏見が高くなるわけではない)、年代別に差がみられた。

特に、機会 all と偏見 neg については、有意な差を確認することができた。

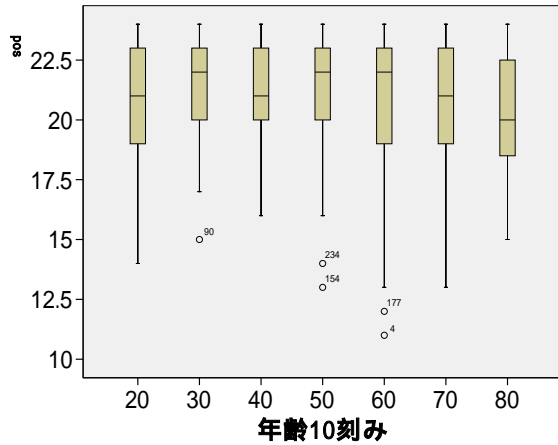
年齢 × 機会 all



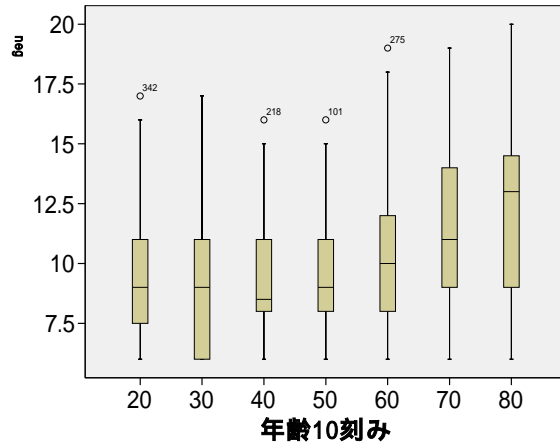
年齢 × 考え all



性別 × 偏見 pos



性別 × 偏見 neg



年齢との間に差があった主な項目

年齢 10 刻み * 障害を持つ人が地域で暮らすことは、あたりまえのことである

20歳代～50代はほぼすべての人が、<まあまあそう思う>と<とてもそう思う>のどちらかに回答した。60～80歳代については、6～10%の人が、<全くそう思わない>もしくは<あまり思わない>と回答している。

加算表

| | | 障害を持つ人が地域で暮らすことは、あたりまえのことである | | | | 合計 | |
|----------------|----------|------------------------------|-----------|----------|---------|--------|--------|
| | | 全くそう思わない | あまりそう思わない | まあまあそう思う | とてもそう思う | | |
| 年齢 10刻 み | 20 | 度数 | 0 | 0 | 14 | 40 | 54 |
| | | 年齢10刻みの% | .0% | .0% | 25.9% | 74.1% | 100.0% |
| | 30 | 度数 | 0 | 1 | 20 | 103 | 124 |
| | | 年齢10刻みの% | .0% | .8% | 16.1% | 83.1% | 100.0% |
| | 40 | 度数 | 0 | 2 | 30 | 97 | 129 |
| | | 年齢10刻みの% | .0% | 1.6% | 23.3% | 75.2% | 100.0% |
| | 50 | 度数 | 0 | 1 | 41 | 108 | 150 |
| | | 年齢10刻みの% | .0% | .7% | 27.3% | 72.0% | 100.0% |
| 60 | 度数 | 4 | 5 | 38 | 84 | 131 | |
| | 年齢10刻みの% | 3.1% | 3.8% | 29.0% | 64.1% | 100.0% | |
| 70 | 度数 | 3 | 2 | 31 | 47 | 83 | |
| | 年齢10刻みの% | 3.6% | 2.4% | 37.3% | 56.6% | 100.0% | |
| 80 | 度数 | 2 | 1 | 8 | 15 | 26 | |
| | 年齢10刻みの% | 7.7% | 3.8% | 30.8% | 57.7% | 100.0% | |
| 合計 | 度数 | 9 | 12 | 182 | 494 | 697 | |
| | 年齢10刻みの% | 1.3% | 1.7% | 26.1% | 70.9% | 100.0% | |

年齢 10 刻み * 障害がある人は施設や病院で生活する方がよい

割合をみると、30歳代と50歳代で<まあまあそう思う>もしくは<とてもそう思う>と回答している人数が10%程度で他に比べて低い。

加算表

| | | 障害がある人は施設や病院で生活する方がよい | | | | 合計 | |
|----------------|----------|-----------------------|-----------|----------|---------|--------|--------|
| | | 全くそう思わない | あまりそう思わない | まあまあそう思う | とてもそう思う | | |
| 年齢 10刻 み | 20 | 度数 | 17 | 24 | 8 | 4 | 53 |
| | | 年齢10刻みの% | 32.1% | 45.3% | 15.1% | 7.5% | 100.0% |
| | 30 | 度数 | 55 | 53 | 12 | 2 | 122 |
| | | 年齢10刻みの% | 45.1% | 43.4% | 9.8% | 1.6% | 100.0% |
| | 40 | 度数 | 32 | 72 | 22 | 2 | 128 |
| | | 年齢10刻みの% | 25.0% | 56.3% | 17.2% | 1.6% | 100.0% |
| | 50 | 度数 | 49 | 81 | 15 | 5 | 150 |
| | | 年齢10刻みの% | 32.7% | 54.0% | 10.0% | 3.3% | 100.0% |
| 60 | 度数 | 38 | 64 | 24 | 6 | 132 | |
| | 年齢10刻みの% | 28.8% | 48.5% | 18.2% | 4.5% | 100.0% | |
| 70 | 度数 | 29 | 32 | 14 | 3 | 78 | |
| | 年齢10刻みの% | 37.2% | 41.0% | 17.9% | 3.8% | 100.0% | |
| 80 | 度数 | 5 | 10 | 6 | 4 | 25 | |
| | 年齢10刻みの% | 20.0% | 40.0% | 24.0% | 16.0% | 100.0% | |
| 合計 | 度数 | 225 | 336 | 101 | 26 | 688 | |
| | 年齢10刻みの% | 32.7% | 48.8% | 14.7% | 3.8% | 100.0% | |

年齢 10 刻み * 障害がある人は家族・親類のみで支える方がよい

20 歳代～60 歳代で「まあまあそう思う」もしくは「とてもそう思う」と回答している人は 10%以下で、特に 30 歳代と 40 歳代は少なかった。70 歳代、80 歳代以上は 20%前後の人が「まあまあそう思う」もしくは「とてもそう思う」と回答している

加算表

| | | 障害がある人は家族・親類のみで支える方がよい | | | | 合計 | |
|----------------|----|------------------------|-----------|----------|---------|-------|--------|
| | | 全くそう思わない | あまりそう思わない | まあまあそう思う | とてもそう思う | | |
| 年齢 10刻 み | 20 | 度数 | 30 | 19 | 3 | 2 | 54 |
| | | 年齢10刻みの% | 55.6% | 35.2% | 5.6% | 3.7% | 100.0% |
| | 30 | 度数 | 72 | 47 | 4 | 1 | 124 |
| | | 年齢10刻みの% | 58.1% | 37.9% | 3.2% | .8% | 100.0% |
| | 40 | 度数 | 63 | 58 | 6 | 1 | 128 |
| | | 年齢10刻みの% | 49.2% | 45.3% | 4.7% | .8% | 100.0% |
| | 50 | 度数 | 84 | 54 | 9 | 5 | 152 |
| | | 年齢10刻みの% | 55.3% | 35.5% | 5.9% | 3.3% | 100.0% |
| | 60 | 度数 | 68 | 51 | 6 | 7 | 132 |
| | | 年齢10刻みの% | 51.5% | 38.6% | 4.5% | 5.3% | 100.0% |
| | 70 | 度数 | 40 | 24 | 11 | 7 | 82 |
| | | 年齢10刻みの% | 48.8% | 29.3% | 13.4% | 8.5% | 100.0% |
| | 80 | 度数 | 13 | 7 | 4 | 3 | 27 |
| | | 年齢10刻みの% | 48.1% | 25.9% | 14.8% | 11.1% | 100.0% |
| | 合計 | 度数 | 370 | 260 | 43 | 26 | 699 |
| | | 年齢10刻みの% | 52.9% | 37.2% | 6.2% | 3.7% | 100.0% |

年齢 10 刻み * 保護者がしっかりと教育すれば、発達障害(自閉症や学習障害等)にはならない

20 歳代～50 歳代で「まあまあそう思う」もしくは「とてもそう思う」と回答している人は 1 割程度もしくは 1 割以下で、特に 40 歳代は 5.5%にとどまった。70 歳代は 42.9%、80 歳代以上は 32%の人が「まあまあそう思う」もしくは「とてもそう思う」と回答している。

加算表

| | | 保護者がしっかりと教育すれば、発達障害(自閉症や学習障害等)にはならない | | | | 合計 | |
|----------------|----|--------------------------------------|-----------|----------|---------|-------|--------|
| | | 全くそう思わない | あまりそう思わない | まあまあそう思う | とてもそう思う | | |
| 年齢 10刻 み | 20 | 度数 | 34 | 14 | 3 | 3 | 54 |
| | | 年齢10刻みの% | 63.0% | 25.9% | 5.6% | 5.6% | 100.0% |
| | 30 | 度数 | 77 | 34 | 8 | 4 | 123 |
| | | 年齢10刻みの% | 62.6% | 27.6% | 6.5% | 3.3% | 100.0% |
| | 40 | 度数 | 78 | 44 | 5 | 2 | 129 |
| | | 年齢10刻みの% | 60.5% | 34.1% | 3.9% | 1.6% | 100.0% |
| | 50 | 度数 | 84 | 52 | 9 | 7 | 152 |
| | | 年齢10刻みの% | 55.3% | 34.2% | 5.9% | 4.6% | 100.0% |
| | 60 | 度数 | 59 | 54 | 11 | 8 | 132 |
| | | 年齢10刻みの% | 44.7% | 40.9% | 8.3% | 6.1% | 100.0% |
| | 70 | 度数 | 25 | 19 | 23 | 10 | 77 |
| | | 年齢10刻みの% | 32.5% | 24.7% | 29.9% | 13.0% | 100.0% |
| | 80 | 度数 | 11 | 6 | 5 | 3 | 25 |
| | | 年齢10刻みの% | 44.0% | 24.0% | 20.0% | 12.0% | 100.0% |
| | 合計 | 度数 | 368 | 223 | 64 | 37 | 692 |
| | | 年齢10刻みの% | 53.2% | 32.2% | 9.2% | 5.3% | 100.0% |

年齢 10 刻み * 気をしっかり持って、生活していれば、精神障害にはならない

上記と同様に、20 歳代～50 歳代で<まゝまゝそう思う>もしくは<とてもそう思う>と回答している人は 10%程度もしくは 10%以下であった。70 歳代は 43%、80 歳代以上は 32%の人が<まゝまゝそう思う>もしくは<とてもそう思う>と回答している。

加算表

| | | | 気をしっかり持って、生活していれば、精神障害にはならない | | | | 合計 |
|----------------|----------|----------|------------------------------|-----------|----------|---------|--------|
| | | | 全くそう思わない | あまりそう思わない | まゝまゝそう思う | とてもそう思う | |
| 年齢 10刻 み | 20 | 度数 | 32 | 18 | 2 | 2 | 54 |
| | | 年齢10刻みの% | 59.3% | 33.3% | 3.7% | 3.7% | 100.0% |
| | 30 | 度数 | 71 | 41 | 8 | 4 | 124 |
| | | 年齢10刻みの% | 57.3% | 33.1% | 6.5% | 3.2% | 100.0% |
| | 40 | 度数 | 86 | 32 | 10 | 1 | 129 |
| | | 年齢10刻みの% | 66.7% | 24.8% | 7.8% | .8% | 100.0% |
| | 50 | 度数 | 91 | 46 | 13 | 1 | 151 |
| | | 年齢10刻みの% | 60.3% | 30.5% | 8.6% | .7% | 100.0% |
| 60 | 度数 | 71 | 39 | 15 | 6 | 131 | |
| | 年齢10刻みの% | 54.2% | 29.8% | 11.5% | 4.6% | 100.0% | |
| 70 | 度数 | 23 | 22 | 23 | 11 | 79 | |
| | 年齢10刻みの% | 29.1% | 27.8% | 29.1% | 13.9% | 100.0% | |
| 80 | 度数 | 11 | 5 | 7 | 2 | 25 | |
| | 年齢10刻みの% | 44.0% | 20.0% | 28.0% | 8.0% | 100.0% | |
| 合計 | 度数 | 385 | 203 | 78 | 27 | 693 | |
| | 年齢10刻みの% | 55.6% | 29.3% | 11.3% | 3.9% | 100.0% | |

年齢 10 刻み * 全ての身体障害は見た目で見える

20 歳代～50 歳代については、90%以上が<全くそう思わない>もしくは<あまりそう思わない>と回答し、60 歳代も 84.8%であった。一方で 80 歳以上は 57.7%にとどまっている。

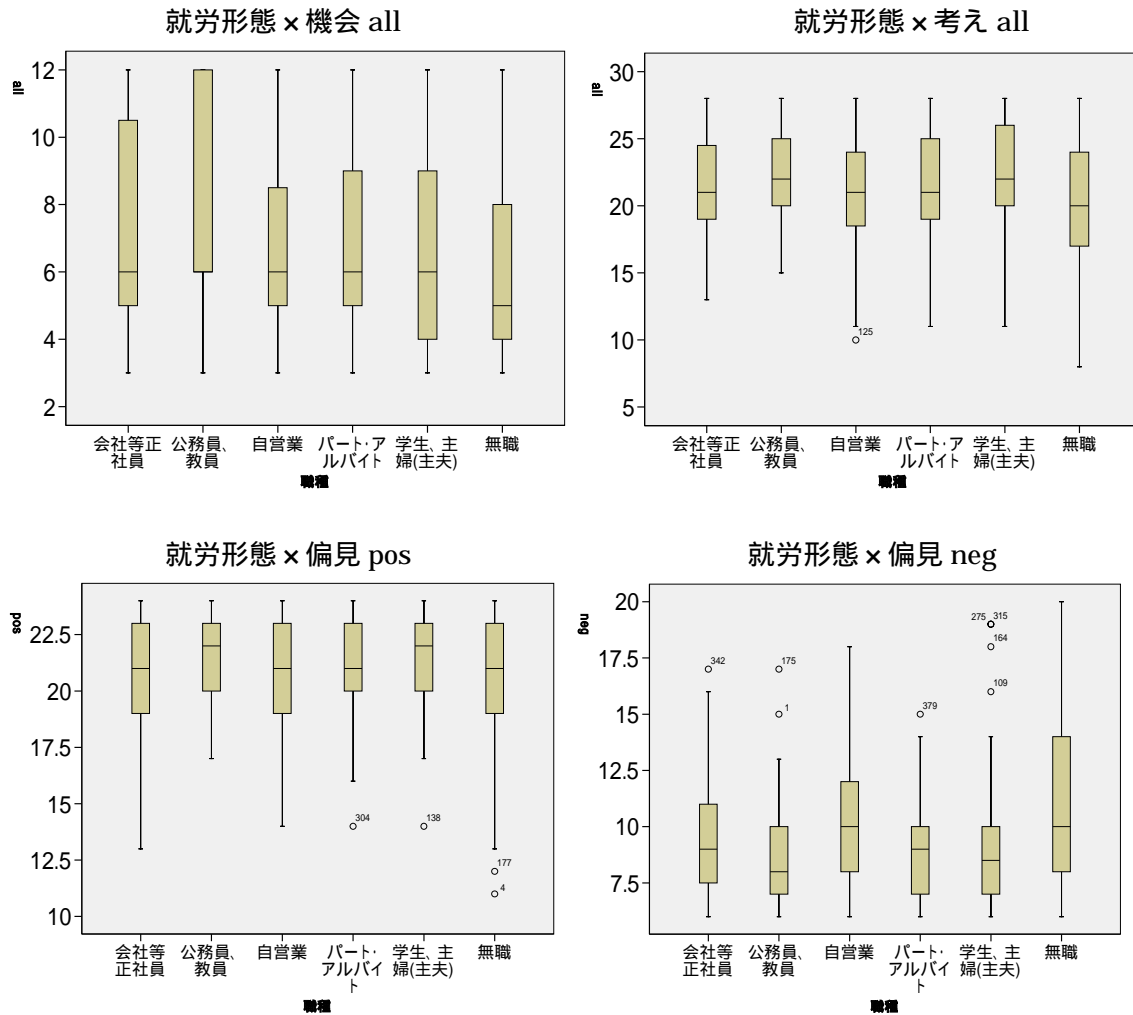
加算表

| | | | 全ての身体障害は見た目で見える | | | | 合計 |
|----------------|----------|----------|-----------------|-----------|----------|---------|--------|
| | | | 全くそう思わない | あまりそう思わない | まゝまゝそう思う | とてもそう思う | |
| 年齢 10刻 み | 20 | 度数 | 34 | 16 | 4 | 0 | 54 |
| | | 年齢10刻みの% | 63.0% | 29.6% | 7.4% | .0% | 100.0% |
| | 30 | 度数 | 83 | 34 | 5 | 1 | 123 |
| | | 年齢10刻みの% | 67.5% | 27.6% | 4.1% | .8% | 100.0% |
| | 40 | 度数 | 88 | 33 | 7 | 1 | 129 |
| | | 年齢10刻みの% | 68.2% | 25.6% | 5.4% | .8% | 100.0% |
| | 50 | 度数 | 92 | 45 | 9 | 5 | 151 |
| | | 年齢10刻みの% | 60.9% | 29.8% | 6.0% | 3.3% | 100.0% |
| 60 | 度数 | 69 | 42 | 15 | 5 | 131 | |
| | 年齢10刻みの% | 52.7% | 32.1% | 11.5% | 3.8% | 100.0% | |
| 70 | 度数 | 33 | 28 | 12 | 6 | 79 | |
| | 年齢10刻みの% | 41.8% | 35.4% | 15.2% | 7.6% | 100.0% | |
| 80 | 度数 | 10 | 5 | 7 | 4 | 26 | |
| | 年齢10刻みの% | 38.5% | 19.2% | 26.9% | 15.4% | 100.0% | |
| 合計 | 度数 | 409 | 203 | 59 | 22 | 693 | |
| | 年齢10刻みの% | 59.0% | 29.3% | 8.5% | 3.2% | 100.0% | |

(3) 就労形態

就労形態と各ブロック間合計との関係を見ると、機会 all、偏見 pos、偏見 neg に有意な差を確認することができた。

無職と回答した人が、他に比べて障害がある人との接触機会が少なく、また、偏見が高い傾向にあった。



勤務形態間で差が確認できた項目

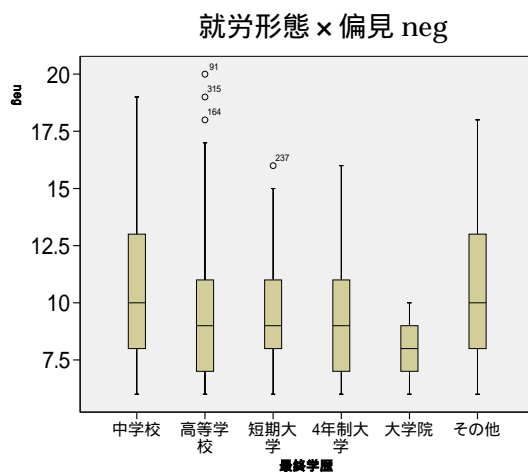
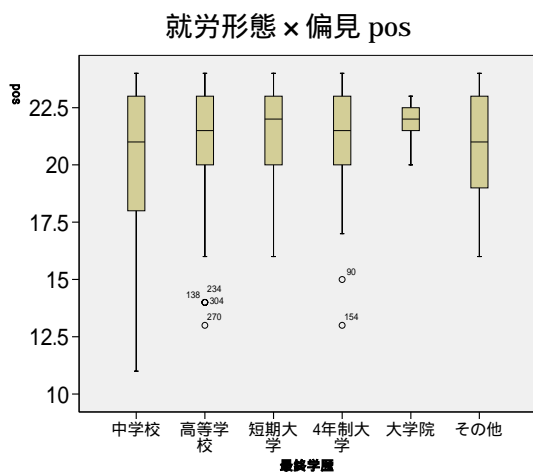
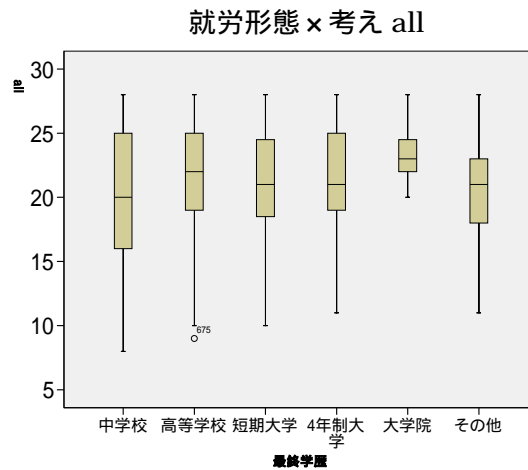
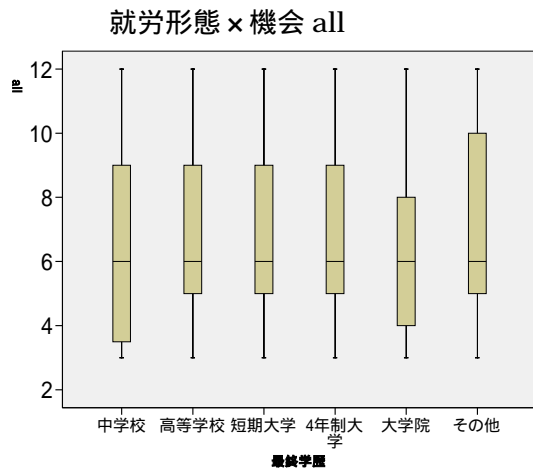
下記の設問との間に有意な差が確認できた。＜無職＞と回答した人が、障害がある人に対しての考えが否定的であり、偏見が高い傾向が多く、その他は自営業が若干否定的な考えである傾向にあるが、他の勤務形態は差がみられなかった。また、無職のうち 88.2%が 60 歳以上であるので、クロス表の掲載は割愛する

- 職種 * 障害がある人に会う機会がある
- 職種 * 障害がある人と話す機会がある
- 職種 * 障害がある人と一緒に活動する機会がある
- 職種 * 友達になるのに障害の有無は関係ない
- 職種 * 障害がある人が近所や同じアパート・マンションにいても気にしない
- 職種 * 電車やバスの中で、障害がある人と隣の席になっても気にしない
- 職種 * 障害がある人が職場にいても、気にしない
- 職種 * 障害を持つ人が地域で暮らすことは、あたりまえのことである
- 職種 * 障害がある人は家族・親類のみで支える方がよい
- 職種 * 保護者がしっかりと教育すれば、発達障害(自閉症や学習障害等)にはならない
- 職種 * 気をしっかり持って、生活していれば、精神障害にはならない
- 職種 * こころの病気を治すには、薬を飲むしかない
- 職種 * 全ての身体障害は見た目で見分ける

(4)最終学歴

最終学歴と各ブロック間合計との関係を見ると、考え all、偏見 pos、偏見 neg に有意な差を確認することができた。

中学校卒業にくらべて、高校卒業以上は障害がある人に対して肯定的な考えを持っていたり、偏見が低い傾向にあった。



最終学歴間で差があった主な項目

最終学歴 * 友達になるのに障害の有無は関係ない

中学校卒業では、54.6%の人が<まあまあそう思う>もしくは<とてもそう思う>と回答したが、高校卒業ではその割合は73%に増え、4年制大学卒業においても75.4%になっている。

加減表

| | | | 友達になるのに障害の有無は関係ない | | | | 合計 |
|----------|-------|--------|-------------------|---------------|--------------|-------------|--------|
| | | | 全くそう わない | あまりそう 思わない | まあまあそ う思う | とてもそう 思う | |
| 最終 学歴 | 中学校 | 度数 | 21 | 29 | 29 | 31 | 110 |
| | | 最終学歴の% | 19.1% | 26.4% | 26.4% | 28.2% | 100.0% |
| | 高等学校 | 度数 | 31 | 47 | 110 | 101 | 289 |
| | | 最終学歴の% | 10.7% | 16.3% | 38.1% | 34.9% | 100.0% |
| | 短期大学 | 度数 | 2 | 14 | 45 | 33 | 94 |
| | | 最終学歴の% | 2.1% | 14.9% | 47.9% | 35.1% | 100.0% |
| | 4年制大学 | 度数 | 8 | 23 | 47 | 48 | 126 |
| | | 最終学歴の% | 6.3% | 18.3% | 37.3% | 38.1% | 100.0% |
| | 大学院 | 度数 | 0 | 0 | 7 | 4 | 11 |
| | | 最終学歴の% | .0% | .0% | 63.6% | 36.4% | 100.0% |
| | その他 | 度数 | 4 | 15 | 26 | 24 | 69 |
| | | 最終学歴の% | 5.8% | 21.7% | 37.7% | 34.8% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 66 | 128 | 264 | 241 | 699 |
| | | 最終学歴の% | 9.4% | 18.3% | 37.8% | 34.5% | 100.0% |

最終学歴 * 障害を持つ人が地域で暮らすことは、あたりまえのことである

<とてもそう思う>に着目すると、中学校卒業では54.2%であったが、高等学校73.5%、短期大学79.8%、4年制大学73.4%になり、大学院では100%になっている。

加減表

| | | | 障害を持つ人が地域で暮らすことは、あたりまえのことである | | | | 合計 |
|----------|-------|--------|------------------------------|---------------|--------------|-------------|--------|
| | | | 全くそう わない | あまりそう 思わない | まあまあそ う思う | とてもそう 思う | |
| 最終 学歴 | 中学校 | 度数 | 6 | 5 | 38 | 58 | 107 |
| | | 最終学歴の% | 5.6% | 4.7% | 35.5% | 54.2% | 100.0% |
| | 高等学校 | 度数 | 2 | 3 | 71 | 211 | 287 |
| | | 最終学歴の% | .7% | 1.0% | 24.7% | 73.5% | 100.0% |
| | 短期大学 | 度数 | 0 | 0 | 19 | 75 | 94 |
| | | 最終学歴の% | .0% | .0% | 20.2% | 79.8% | 100.0% |
| | 4年制大学 | 度数 | 0 | 2 | 32 | 94 | 128 |
| | | 最終学歴の% | .0% | 1.6% | 25.0% | 73.4% | 100.0% |
| | 大学院 | 度数 | 0 | 0 | 0 | 11 | 11 |
| | | 最終学歴の% | .0% | .0% | .0% | 100.0% | 100.0% |
| | その他 | 度数 | 1 | 1 | 22 | 45 | 69 |
| | | 最終学歴の% | 1.4% | 1.4% | 31.9% | 65.2% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 9 | 11 | 182 | 494 | 696 |
| | | 最終学歴の% | 1.3% | 1.6% | 26.1% | 71.0% | 100.0% |

最終学歴 * 保護者がしっかりと教育すれば、発達障害(自閉症や学習障害等)にはならない

中学校卒業では、26.9%の人が<まあああそう思う>もしくは<とてもそう思う>と回答したが、高校卒業ではその割合は14%に減少し、4年制大学卒業においては11.7%になっている。

加え表

| | | | 保護者がしっかりと教育すれば、発達障害(自閉症や学習障害等)にはならない | | | | 合計 |
|------|-------|--------|--------------------------------------|-----------|----------|---------|--------|
| | | | 全くそう思わない | あまりそう思わない | まあああそう思う | とてもそう思う | |
| 最終学歴 | 中学校 | 度数 | 44 | 32 | 17 | 11 | 104 |
| | | 最終学歴の% | 42.3% | 30.8% | 16.3% | 10.6% | 100.0% |
| | 高等学校 | 度数 | 154 | 92 | 22 | 18 | 286 |
| | | 最終学歴の% | 53.8% | 32.2% | 7.7% | 6.3% | 100.0% |
| | 短期大学 | 度数 | 52 | 35 | 4 | 3 | 94 |
| | | 最終学歴の% | 55.3% | 37.2% | 4.3% | 3.2% | 100.0% |
| | 4年制大学 | 度数 | 75 | 38 | 12 | 3 | 128 |
| | | 最終学歴の% | 58.6% | 29.7% | 9.4% | 2.3% | 100.0% |
| | 大学院 | 度数 | 8 | 3 | 0 | 0 | 11 |
| | | 最終学歴の% | 72.7% | 27.3% | .0% | .0% | 100.0% |
| | その他 | 度数 | 35 | 22 | 9 | 2 | 68 |
| | | 最終学歴の% | 51.5% | 32.4% | 13.2% | 2.9% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 368 | 222 | 64 | 37 | 691 |
| | | 最終学歴の% | 53.3% | 32.1% | 9.3% | 5.4% | 100.0% |

最終学歴 * 気をしっかり持って、生活していれば、精神障害にはならない

中学校卒業では、23.8%の人が<まあああそう思う>もしくは<とてもそう思う>と回答したが、高校卒業ではその割合は9.4%に減少し、4年制大学卒業においては7%になっている。

加え表

| | | | 気をしっかり持って、生活していれば、精神障害にはならない | | | | 合計 |
|------|-------|--------|------------------------------|-----------|----------|---------|--------|
| | | | 全くそう思わない | あまりそう思わない | まあああそう思う | とてもそう思う | |
| 最終学歴 | 中学校 | 度数 | 43 | 30 | 20 | 12 | 105 |
| | | 最終学歴の% | 41.0% | 28.6% | 19.0% | 11.4% | 100.0% |
| | 高等学校 | 度数 | 165 | 82 | 30 | 10 | 287 |
| | | 最終学歴の% | 57.5% | 28.6% | 10.5% | 3.5% | 100.0% |
| | 短期大学 | 度数 | 56 | 31 | 7 | 0 | 94 |
| | | 最終学歴の% | 59.6% | 33.0% | 7.4% | .0% | 100.0% |
| | 4年制大学 | 度数 | 80 | 38 | 8 | 2 | 128 |
| | | 最終学歴の% | 62.5% | 29.7% | 6.3% | 1.6% | 100.0% |
| | 大学院 | 度数 | 10 | 1 | 0 | 0 | 11 |
| | | 最終学歴の% | 90.9% | 9.1% | .0% | .0% | 100.0% |
| | その他 | 度数 | 31 | 20 | 13 | 3 | 67 |
| | | 最終学歴の% | 46.3% | 29.9% | 19.4% | 4.5% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 385 | 202 | 78 | 27 | 692 |
| | | 最終学歴の% | 55.6% | 29.2% | 11.3% | 3.9% | 100.0% |

(5)身近に障害がある人がいるか(いたか)との関係

この設問については、質問の性格上、複数回答可としたため、全体としてのクロス集計等ができなかった。

(再掲)

| | あなたの身近に障害がある人がいますか |
|------------|--------------------|
| 自分自身 | 34 |
| 家族や身近な親類 | 331 |
| 隣近所 | 162 |
| 学校 | 69 |
| 職場 | 112 |
| 仕事関係 | 77 |
| 趣味等の活動 | 41 |
| その他 | 39 |
| 身近にいたことはない | 123 |

機会 all、考え all、偏見 pos、偏見 neg との関係を検証した結果、有意な差があったのは機会 all のみであった。

それぞれの項目ごとに、身近に障害がある人がいるか(いたか)といないの差を検証した。下記は有意な差が確認できたもの。(抜粋)

自分自身(に障害がある) * 障害がある人は家族・親類のみで支える方がよい

自分自身に障害があると回答した人とないと回答した人を比べると、<まあまあそう思う>もしくは<とてもそう思う>と回答した割合は、ある人が27.3%であり、ない人が11.2%であった。度数に差はあるものの、障害がある人のほうが、<障害がある人は家族・親類のみで支えるほうがよい>に対して肯定している傾向にあった。

加入表

| | 障害がある人は家族・親類のみで支える方がよい | | | | 合計 | | |
|------|------------------------|-----------|----------|---------|-------|------|--------|
| | 全くそう思わない | あまりそう思わない | まあまあそう思う | とてもそう思う | | | |
| 自分自身 | なし | 度数 | 354 | 248 | 34 | 22 | 658 |
| | | 自分自身の% | 53.8% | 37.7% | 5.2% | 3.3% | 100.0% |
| 自分自身 | ある | 度数 | 11 | 13 | 6 | 3 | 33 |
| | | 自分自身の% | 33.3% | 39.4% | 18.2% | 9.1% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 | 365 | 261 | 40 | 25 | 691 |
| | | 自分自身の% | 52.8% | 37.8% | 5.8% | 3.6% | 100.0% |

職場(に障害がある人がいる) * 友達になるのに障害の有無は関係ない

職場に障害がある人がいると回答した人といないと回答した人を比べると、<まあああそう思う>もしくは<とてもそう思う>と回答した割合は、いる人が84.9%であり、いない人が70.5%であった。

加減表

| | | 友達になるのに障害の有無は関係ない | | | | 合計 |
|----|----|-------------------|-----------|----------|---------|--------|
| | | 全くそう思わない | あまりそう思わない | まあああそう思う | とてもそう思う | |
| 職場 | なし | 度数 60 | 111 | 214 | 195 | 580 |
| | | 職場の % 10.3% | 19.1% | 36.9% | 33.6% | 100.0% |
| | ある | 度数 5 | 12 | 46 | 49 | 112 |
| | | 職場の % 4.5% | 10.7% | 41.1% | 43.8% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 65 | 123 | 260 | 244 | 692 |
| | | 職場の % 9.4% | 17.8% | 37.6% | 35.3% | 100.0% |

職場 (に障害がある人がいる)* 障害がある人が職場にいても、気にしない

職場に障害がある人がいると回答した人といないと回答した人を比べると、<まあああそう思う>もしくは<とてもそう思う>と回答した割合は、いる人が87.5%であり、いない人が73.3%であった。

加減表

| | | 障害がある人が職場にいても、気にしない | | | | 合計 |
|----|----|---------------------|-----------|----------|---------|--------|
| | | 全くそう思わない | あまりそう思わない | まあああそう思う | とてもそう思う | |
| 職場 | なし | 度数 54 | 97 | 197 | 217 | 565 |
| | | 職場の % 9.6% | 17.2% | 34.9% | 38.4% | 100.0% |
| | ある | 度数 9 | 5 | 34 | 64 | 112 |
| | | 職場の % 8.0% | 4.5% | 30.4% | 57.1% | 100.0% |
| 合計 | | 度数 63 | 102 | 231 | 281 | 677 |
| | | 職場の % 9.3% | 15.1% | 34.1% | 41.5% | 100.0% |

2 相関関係

前述の6、7、8(1)、8(2)それぞれをブロックごとに合算し、4ブロックの相関係数を算出した。

- 6 <障害がある人と接する機会> 機会 all*
 7 <障害がある人の生活についての考え> 考え all
 8(1) <障害がある人に対して感じていること>のうち、肯定的なもの 偏見 pos
 8(2) <障害がある人に対して感じていること>のうち、否定的なもの 偏見 neg

相関係数

| | | 機会all | 考えall | 偏見pos | 偏見neg |
|-------|--------------|--------|--------|--------|--------|
| 機会all | Pearsonの相関係数 | 1 | .185* | .180* | -.084* |
| | 有意確率(両側) | | .000 | .000 | .030 |
| | N | 683 | 647 | 663 | 661 |
| 考えall | Pearsonの相関係数 | .185* | 1 | .476* | -.220* |
| | 有意確率(両側) | .000 | | .000 | .000 |
| | N | 647 | 660 | 648 | 640 |
| 偏見pos | Pearsonの相関係数 | .180* | .476* | 1 | -.372* |
| | 有意確率(両側) | .000 | .000 | | .000 |
| | N | 663 | 648 | 680 | 659 |
| 偏見neg | Pearsonの相関係数 | -.084* | -.220* | -.372* | 1 |
| | 有意確率(両側) | .030 | .000 | .000 | |
| | N | 661 | 640 | 659 | 676 |

** 相関係数は1%水準で有意(両側)です。

* 相関係数は5%水準で有意(両側)です。

相関係数は低いものの、全てのブロック間に1%水準で有意な相関関係があることがわかった。つまり、機会がある人ほど、偏見が少なかったり、考えが肯定的なほど、偏見が低いことを確認することができた。

考え all と偏見 pos との相関係数は0.476であり、比較的高い相関が認められた。障害がある人に対して肯定的な考えをもっている人は、障害のある人への偏見が少ない傾向があることがわかった。

相関係数^{iv}

相関係数のプラスとマイナスの記号は関係の方向を表し、絶対値の大きさが関係の強さを表します。すなわち、2つの変数の一方が大きくなると他方も大きくなる正の相関関係では、関係が強くなるほど、値が0から1に近づきます。逆に、一方の変数の値が大きくなると他方は小さくなる負の相関関係では関係が強くなるほど0から-1に近づきます。

また、6 <障害がある人と接する機会>を合算せずそれぞれの項目と、他の3ブロックとの相関係数を算出したところ、すべて、会う 話す 活動の順に相関係数が高くなっていった。交流が密接であるほど、肯定的な考えを持っており、偏見も低い結果となった、

相関係数

| | | 障害がある人に会う機会がある | 障害がある人と話す機会がある | 障害がある人と一緒に活動する機会がある |
|-------|---------------|----------------|----------------|---------------------|
| 考えall | Pearson の相関係数 | .139** | .186** | .206** |
| | 有意確率 (両側) | .000 | .000 | .000 |
| | N | 655 | 653 | 648 |
| 偏見pos | Pearson の相関係数 | .131** | .186** | .201** |
| | 有意確率 (両側) | .001 | .000 | .000 |
| | N | 673 | 671 | 666 |
| 偏見neg | Pearson の相関係数 | -.062 | -.077* | -.093* |
| | 有意確率 (両側) | .107 | .048 | .016 |
| | N | 670 | 666 | 664 |

** . 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) です。

* . 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) です。

その他、項目間で高い相関係数(.400 <)が確認できたものは下記の通り

| 項目 1 | 項目 2 | 相関係数 |
|-------------------------------------|-----------------------------------|--------|
| 電車やバスの中で、障害がある人と隣の席になっても気にしない | 障害がある人が職場にいても、気にしない | .691** |
| 電車やバスの中で、障害がある人と隣の席になっても気にしない | 障害がある人が、近所や同じアパート・マンションにいても気にしない。 | .782** |
| 電車やバスの中で、障害がある人と隣の席になっても気にしない | 友達になるのに障害の有無は関係ない | .575** |
| 障害がある人が、近所や同じアパート・マンションにいても気にしない。 | 障害がある人が職場にいても、気にしない | .653** |
| 障害を持つ人が地域で暮らすことは当たり前のことである。 | 人はだれでも何かの障害を持つ可能性がある。 | .461** |
| 障害を持つ人が地域で暮らすことは当たり前のことである。 | 障害の有無に関わらず、人は自分の意思を尊重されるべきである。 | .430** |
| 人は誰でも障害を持つ可能性がある。 | 障害の有無に関わらず、人は自分の意思を尊重されるべきである。 | .431** |
| 保護者がしっかりと教育すれば発達障害(自閉症や学習障害)にはならない。 | 気をしっかり持って、生活していれば、精神障害にはならない。 | .600** |

3 障害がある人との接触機会と偏見の関係

障害がある人に会う機会、話す機会、一緒に活動する機会それぞれを1 なし 2~4 あると処理し、分析をした。

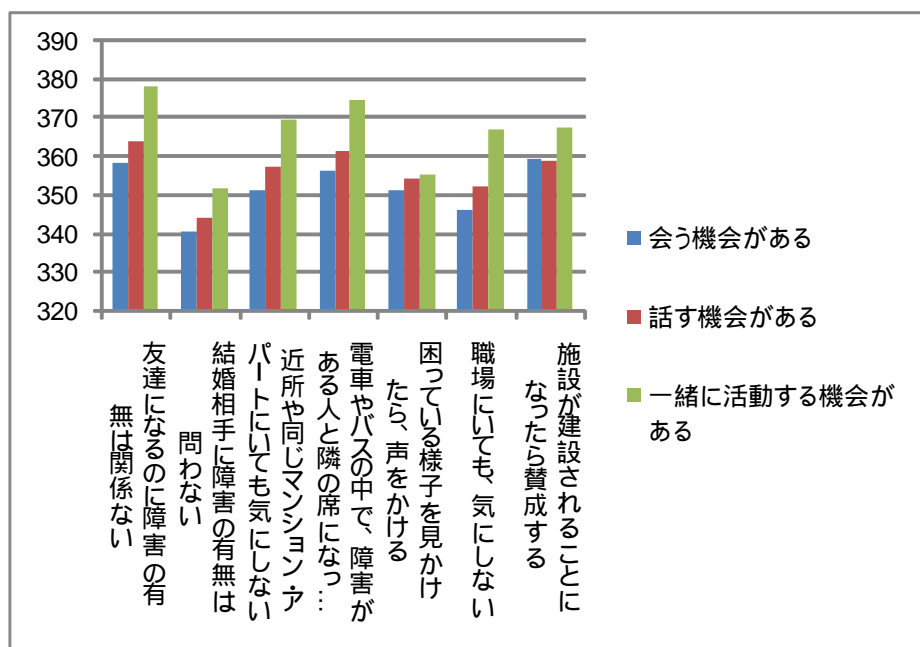
設問では、全くない= 1、何回かあった= 2、月に1回程度ある= 3、週に1回以上ある= 4と回答を求めている。

会う機会がある人 話す機会がある人 活動する機会がある人の順に障害がある人に対して肯定的な考えを示す得点が、ほぼすべての項目で高くなっている。

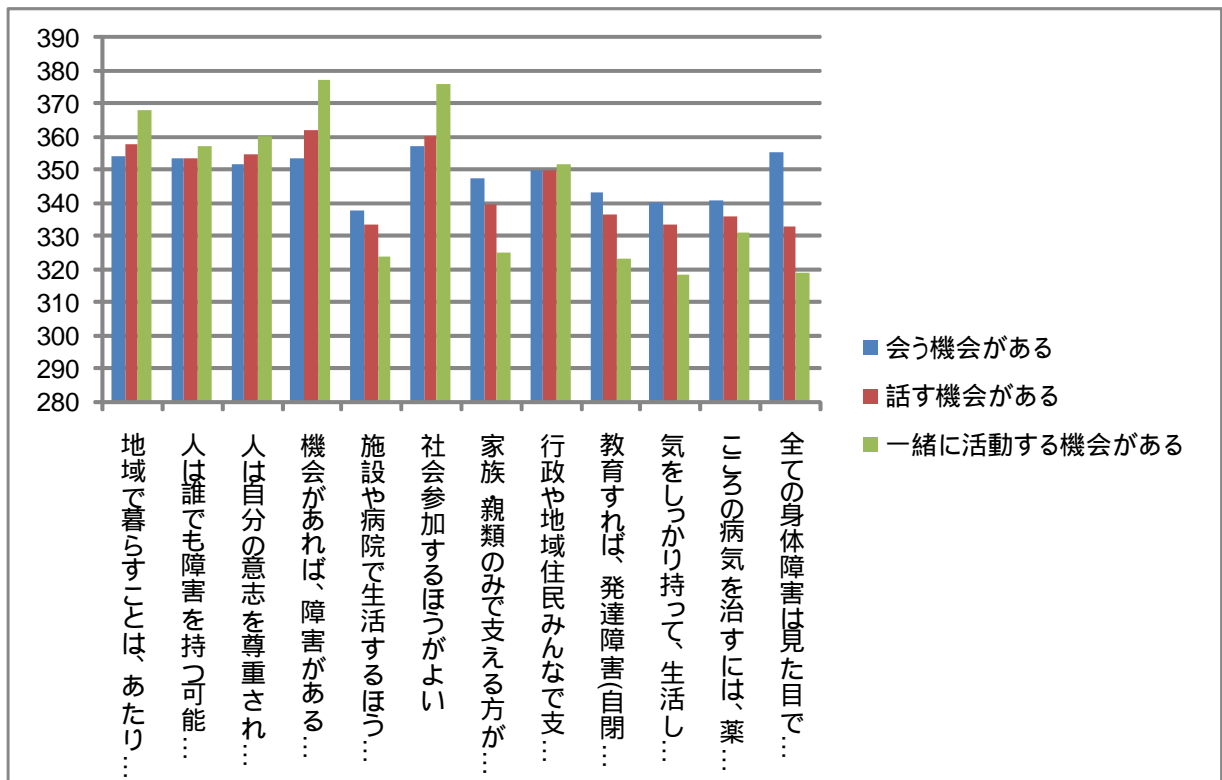
このことは、障害がある人との交流機会が密接なほど、障害がある人への考えが肯定的であったり、偏見が低いことを示唆している。

また、個別の項目別に見れば、有意差が確認できたものについては、交流の機会がない人に比べ、機会がある人は、考えが肯定的であり、偏見が低いと言える。

問7



問 8



問 8 についても、肯定的な項目は、会う機会がある人 話す機会がある人 活動する機会がある人の順に得点が高くなり、否定的な項目については会う機会がある人 話す機会がある人 活動する機会がある人の順に得点が低くなっている。

会う機会がある人 話す機会がある人 活動する機会がある人の順に、偏見が低くなっている。

分析方法はノンパラメトリック検定(Mann-Whitney 検定)により、2つのグループ間での差の有無を調べた。

統計的に有意差(5%水準)が認められたもの
 表の数字は平均ランクを表している。数字の低いものから順位つけ、その平均値である。
 今回、下表の数字が低いほど、得点が低いことになる。逆に数字が大きいほど、得点が高く、設問に対して肯定していることになる。

会う機会があるかどうか 話す機会があるかどうか 活動する機会があるかどうかの順に、機会がある人となない人の差が大きくなっている傾向にある。

| | | | 会う機会 | | 話す機会 | | 活動する機会 | |
|--------|---|-------------------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | なし | ある | なし | ある | なし | ある |
| 問 7 | 1 | 友達になるのに障害の有無は関係ない | 297.88 | 358.25 | 295.63 | 363.74 | 306.04 | 378.33 |
| | 2 | 結婚相手に障害の有無は問わない | 326.59 | 340.27 | 312.36 | 344.27 | 316.09 | 351.43 |
| | 3 | 障害がある人が近所や同じマンション・アパートにいても気にしない | 316.40 | 351.38 | 302.45 | 357.34 | 309.57 | 369.64 |
| | 4 | 電車やバスの中で、障害がある人と隣の席になっても気にしない | 301.37 | 356.17 | 297.85 | 361.55 | 306.20 | 374.89 |
| | 5 | 障害がある人が困っている様子を見かけたら、声をかける | 317.97 | 351.06 | 315.58 | 354.01 | 324.27 | 355.41 |
| | 6 | 障害がある人が職場にいても、気にしない | 312.83 | 346.01 | 302.06 | 351.98 | 303.71 | 367.25 |
| | 7 | 自分の地域に障害がある人のための施設が建設されることになったら賛成する | 290.72 | 359.13 | 307.98 | 358.74 | 315.92 | 367.70 |

| | | | 会う機会 | | 話す機会 | | 活動する機会 | |
|--------|----|--------------------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | なし | ある | なし | ある | なし | ある |
| 問 8 | 1 | 障害がある人が地域で暮らすことは、あたりまえのことである | 309.18 | 354.17 | 307.00 | 357.69 | 312.42 | 368.09 |
| | 2 | 人は誰でも何かの障害を持つ可能性がある | 327.54 | 353.33 | 330.58 | 353.47 | 329.73 | 357.11 |
| | 3 | 障害の有無に関らず、人は自分の意志を尊重されるべきである | 328.01 | 351.41 | 320.85 | 354.86 | 323.92 | 359.92 |
| | 4 | 機会があれば、障害がある人と交流したい | 289.41 | 353.34 | 282.67 | 361.80 | 297.94 | 377.24 |
| | 5 | 障害がある人は施設や病院で生活するほうがよい | 367.28 | 337.49 | 360.67 | 333.35 | 354.35 | 324.05 |
| | 6 | 障害がある人も社会参加するほうがよい | 291.69 | 356.96 | 299.21 | 360.43 | 305.53 | 375.75 |
| | 7 | 障害がある人は家族・親類のみで支えるほうがよい | 349.06 | 347.19 | 361.60 | 339.86 | 359.00 | 325.25 |
| | 8 | 障害がある人は行政や地域住民みんなで支えるほうがよい | 335.56 | 349.92 | 333.25 | 349.82 | 332.18 | 351.68 |
| | 9 | 保護者がしっかりと教育すれば、発達障害(自閉症や学習障害等)にはならない | 348.58 | 343.08 | 357.79 | 336.48 | 356.97 | 323.37 |
| | 10 | 気をしっかり持って、生活していれば、精神障害にはならない | 364.65 | 340.46 | 368.52 | 333.35 | 363.30 | 318.10 |
| | 11 | こころの病気を治すには、薬を飲むしかない | 360.20 | 340.74 | 359.32 | 335.94 | 348.39 | 330.76 |
| | 12 | 全ての身体障害は見た目で見分ける | 388.41 | 355.60 | 369.01 | 333.10 | 362.14 | 319.11 |

自由記述(抜粋)

- ・ よくスーパーなどで車イスの人を見かけるが、声をかけて助けた方がいいのか...よくわかりません。例えば『ヘルプカード』のような印があれば、そのチャンスもあるかと思います。自立の点からみて、本人にとって、“めいわく”にならないよう援助したい気持ちは持っています。
- ・ 私の孫（4歳3か月）も発達障害です。『施設名』に大変お世話になり、ありがたく思っています。これから小学校、中学校と大きくなっていく訳ですが、まわりの人達の目や考えが、少し気になるようにだんだん思えるのではないかと思います。また、大人になり家庭が持てるのか？とかいろいろ心配な事は山ほどあります。でも、昔ほど差別はないように思いますし、楽観的に思う時もあります。娘夫婦は、ずっとその子の心配をしていくと思うと気の毒です。ますます、このような障害の人も人並みに生活できていけるような世の中が来ると良いと思います。
- ・ 「障害のある方」に対し、なるべく力になりたいと思っているが、必要以上の特別扱いはしないよう気をつけてもいる。その辺の兼ね合いが難しいところだが、自分に出来ることは、やりたいと思う。
- ・ 「車イス」や「寝たきり」になっているのに、障害者手帳をもらえない人がいるのはおかしいと思う。
- ・ 障害者を支えるのは、家族だけでは無理だと思う。
- ・ 小学生の時から色々な「障害を持つ人達」についての理解をさせる勉強をしておかないと偏見を持った大人になってしまう。
- ・ 小学生の時分から、障害者や老人とふれあう時間を設けた方が良い。(障害者を助けたくても、どのように接して良いのか分からないと思う。)
- ・ 障害の種類により、回答が異なる場合があると思います。
- ・ 親類に聴覚障害者がいるが、小さい頃から接していたので、障害者という認識を持っていなかったし、日常生活で障害者について考える機会がないというのが正直なところ。このアンケートに答えていて、自分の考えが「障害者は社会全体で支えるべき」と思いながら「一緒のアパートに住んでいるのは気になる」とすごく矛盾してははかしくなった。障害にもよるなぁ...とも思った。これを機会に少し考えてみたい。他人事ではないのだから。

- ・ 障害のある人が、施設や病院ではなく地域社会の中で一緒に生活する事には賛成ですが、地域の人々や設備の受け入れがしっかりと整っていなければ、お互いに安心して理解し合う事ができなくなる場合もあります。私の周りでも偏見や理解不足の人や不備のある施設、設備もあり障害のある人が生活しにくい場所もあります。

また、障害者の意識も「社会の全ての人が温かく迎えてくれるのではない」という現実を知っていないと辛い事が多くなると思います。

様々な試みをするのは素晴らしい事だと思います。忘れてはいけないのは、「受け入れてもらう人」「受け入れる人」「環境や設備」を3つセットにして考え進めていく事だと思います。
- ・ いずれは自分も年をとり、身体が自由がきかなくなり、生活が不自由となることはわかっているのですが、その場に立ってみないと、なかなか実感がわかないので、アンケートにもはっきりとしたことは、書けませんでした。
- ・ 障害の有無に関らず、みんなが幸せに暮らすことができるような世の中になってほしいです。
- ・ 障害者といっても知的障害と身体障害とでは不自由さも異なるし、出来る事も違ってきますが、実際の生活では障害者に接する機会も少なく、社会的な認知度もとても低いと思います。それぞれの障害の程度に合わせて、出来る仕事を続けていけるような社会を作るのが理想だと思います。少子化問題、介護問題とも共通すると思いますが、やはり社会全体の認知度の低さ、関心の低さに問題があるのではないのでしょうか？
- ・ “障害”という言葉でひとくくりした今回の設問には、答えにくいものがありました。精神障害への対応配慮は大変難しいものです。身体障害のある方との付き合い方も過去の認識(昔は特別な目でみていることが当たり前と教えられていた)から脱却できない双方の人間関係が多々みられる。意識改革はなかなか地につかない。

脚注

- i 坂田周一『社会福祉リサーチ』有斐閣アルマ 2003 P131
- ii 坂井隆「範囲と標準偏差とは」『実務入門 図解 アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター 2003 P128
- iii 2、再掲 P181
- iv 2、再掲 P252